

---

# バカとテストと召喚獣 another

マッキー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣 another

### 【NZコード】

N1759W

### 【作者名】

マッキー

### 【あらすじ】

AクラスとFクラスのオリジナル主人公が文月学園で大暴れ！つて感じのストーリーです

初小説です

いろんなマンガのネタをバカテスキヤラ&オリキヤラでやつたりする予定あり「主に銀魂」

作者は受験生の為更新は難しいと思われるのをご了承ください

## 登場人物紹介（前書き）

Fクラスの主人公です

## 登場人物紹介

Fクラス主人公  
神乃河 隼人

清涼祭開始前に文月学園に転校する

普通はBクラス並の成績だが、試験の日にちを間違え無得点に、Fクラスに

暗記力が半端なくあり、フラッシュ暗算は日本でトップを狙える実力  
バーコードの数字は少し見ただけで完璧に覚える

なぜ成績がBクラス並かというと

慎重すぎて一度解いた問題何度も見直す

数学とか確め算を何度もするなどという徹底ぶりのせいである  
しかしその分解けた問題必ずと言つていいほど正解する

そのため彼の答案用紙にはバツが存在しない  
おぼろげながらでも答えが分かつても

「せっかく書いた解答が間違えるのは不愉快」

という理由で解答は書かない

得意科目は暗記系全般、不得意科目は数学である（確め算で時間がかかるため）

暗記力がすごいため秀吉の演劇を手伝つことがある（台本をすぐ覚えるから）

木下姉弟とは小学校、中学校の頃から一緒に一人を完璧に見分けられる  
ムツツリーニとは中学から一緒に

中学3年の5月に転校

Aクラスの主人公、松永仁志とは親友である

普段は気がよく話しかけやすい人、他人とも気軽に話せる  
しかし友人が危機に陥ると、性格が変わり、鉄人以上の戦闘力を発揮し、相手を倒すその姿は【霸王】と呼ばれるほど、【霸王】のときは恐ろしいほど怖くなり、睨んだだけでたいていの人は腰を抜かす  
しかしそうほど危機にならない限り【霸王】にはならない

髪は焦げ茶色で雄一より身長は少し低いくらい

制服を着崩しており、冬服はネクタイを取りブレザー全開  
夏服はネクタイ取って、シャツを出している

あと恋愛沙汰に興味なし

何故かFFF団団長の称号を持つており最高権力者である  
そのときの姿はFFF団の服とは違い黒コートでフードを田深に被り鎌を持っている  
自ら異端者肅清には行かず、指揮官のような役割  
ある程度常識ができる為  
明久が秀吉とイチャついても明久を庇っている（隼人は秀吉が男と認識してるため）  
しかし女と関係を持つたとなると肅清に掛かるが、弁当を食べていたり、手を繋いでも肅清はしないため、FFF団の中ではマシン方である。

召喚獣の装備は黒の長ズボン、黒のTシャツに銀のラインが入った  
黒コート

武器は白みがかかった蒼色の太刀（ただしデザインは洋風の剣）  
腕輪の能力は武器の破壊力を上げ、大地を割るような一撃を放つ【  
粉碎刃】  
ふんさいじん

召喚獣の装備変更後は腕輪も変わる

## 登場人物紹介（後書き）

疲れた…仁志の紹介は後ほど書きます  
質問も気軽にどうぞ

登場人物紹介 2（前書き）

Aクラス主人公…の前に、隼人についてもう少し

登場人物紹介 2

Fクラス  
神乃河 隼人

身長 175センチ

体重 66キロ

好きなもの 友達、家族「母親を除く」

嫌いなもの 裏切る人 母親

好きな食べ物も嫌いな食べ物も特になし、なんでも食べる

利き手両利き

特徴 カンがいい、暗記力がすごい

家事はだいたいできる

家族構成 隼人 次男 父親 母親  
現在 隼人 父親

中学三年五月の初めにある事件を理由に引っ越し、仁志達と離れた

Aクラス主人公

松永 仁志  
まつなが ひとし

身長 175センチ

体重 67キロ

好きなもの 料理

嫌いなもの 疑り深い人

好きな食べ物 全ての料理が好き

嫌いな食べ物はない

家族構成

父親 母親 仁志

利き手 右

特徴 後始末や証拠隠滅が得意 フォローが上手い

髪の色は黒、眼の色は右が赤、左が黒のオッドアイで  
仁志はこの目のせいでのバケモノ呼ばわりされたが、木下姉弟は綺麗、  
隼人はかっこいいと行つたため、  
立ち直つた、中学でムツツリー二にも、普通だと言われた

中学時代隼人がいろいろしてかしたのを証拠隠滅したり、後始末を  
していた

文月学園入学後は雄二、明久、ムツツリー二、秀吉と行動していたが  
2年でクラスが分かれた

家がレストランで、父親は店長そのため小さい頃から専門的に料理をしてたため腕は明久も超える実力 料理となると無駄に博識

得意科目は理数系、苦手科目は文系

テストの結果が、その時の調子によって大きく違う悪いときはBクラスの下位くらいだが、調子が絶好調だと霧島をも超える点を取る

振り分け試験時はギリギリAクラスだった

召喚獣の装備は赤色の鎧

武器は黒色のガントレット

腕輪の能力は【狂暴化】<sup>バーサク</sup>、使用中は点数が減り続けるが、

攻撃、防御、素早さが異常に上がる

## 登場人物紹介 2（後書き）

隼人「俺が母親が嫌いな理由？」

作者「読んでからのお楽しみだな」

仁志「つーかこれあるメッセージを参考にしてへんしゅ・・・」

隼人・作者「シーツー！」

## 一年生編～プロローグ～（前書き）

清涼祭開始までは仁志が主人公です

## 一年生編～プロローグ～

今日は・・・・・特別な日・・・

何故ならそれは・・・・

「姉上ー！そろそろ行かんと入学式に遅れるぞー」

「分かってるわよ、今行くわ

今日は文月学園の入学式なのだから

家を出て前を見ると、そこにあるのは1年前、彼が暮らしてた家  
彼は元気かな？今何処で何しているのだろう？

それはわからないけど・・・・・信じていれば会えるはず・・・

・・・・・きっと・・・・・

\* 雄一視点

たくつ・・・・めんどいな入学式なんか・・・  
まさか翔子同じところなんて・・おふくろも余計な事を・・・

そう考えていた時、一通のメールが届いた

「あ？ 誰だ・・つて正和から・・・？」

メールの送り主は小学、中学と一緒にたたな親友

水谷 正和からだつた

from 水谷正和 to 坂本雄一

今日お前入学式だつたよな？

俺も隼人達と一緒に新月高校に向かう所だ  
お互い新たな学校で頑張ろうぜ

俺は「そつだな、そつちも頑張れよ」と返信し携帯を閉じた

\* 仁志視点

「おはよー」

朝の挨拶は肝心だな

「あら、仁志おはよー」

そう返事をしたのは俺の母さんだ

「父さんは？」

「お父さんは新しいメニューだからなんかでいないわよ」

「そーカい、帰つたら俺も手伝つてみるよ」

「俺の家は実はレストランで、父さんはそこのおーナーだ

よく俺もガキの頃から手伝つたりするし、料理も好きだ

「そうね、お父さんも喜ぶと思うわ、それよりも行かなくていいの？今日は入学式でしょう？」

「俺がパンを食つてたらこきなりそんなことを言われた

「お、ホントだそろそろ行つてくる」

「いつてらっしゃい」

家を出でしぱらへ歩くとそこには、友人の平賀源一の姿があつた

「よう源一」

「ああ、仁志……ん？お前右目隠さなくていいのか？」

源一にそう指摘された その通り俺は赤色の右目があり、今までそれを黒のカラー「コンタクトで隠していた

「まあ・・・自分を隠す必要なんざねーしな、それにお前等がいる限り苛めとかの対象にもならんだり」

「そうだな、秀吉や、俺やムツツリー、優子でカバーすりや大丈夫だろ」

「とつ・・・そろそろ学校だな」

源一がそういうと文月学園が見えてきた

「よしそうな学園生活の幕開けと行きますか！」

## 一年生編／プロローグ（後書き）

雄二にメール送った正和はオリキャラです  
あと、一人オリキャラが存在しますが  
二人とも新月高校で、隼人と愛子も現在新月高校です  
あと、源一もムツツリー二と同じく中学時代一緒にいたという設定  
です

## 1年生編 第一問

「お～う、俺はB組かい、お、ムツツリーーーと秀吉がいるな、源一  
は？」

「俺はC組、木下と同じだ」

「・・・仁志、源一おはよう」

クラスを確認していると中学の時の友人ムツツリーーーがいた  
「おう、おはよう」

「おはよう、早いな、そう言えばムツツリーーーお前B組だよ  
源一がそう言う

「・・・B組か・・・あと流石に入学式に遅刻なんてへマはしない  
「そりや、『』もつともだな・・・ん？」

「どうした？」仁志

「・・・なにかあった？」

いや、それほどでもないが・・・

「さつき・・・

下にズボン穿いて上にセーラー服着た人が長身赤髪の男を追いか

けていたような・・・」

「ただの変態じゃないか」

「ああ、赤髪の男が変態だと叫んでいた」

「・・・この学校はおかしな奴が多い」

「お前もおかしいと思つ」

俺と源一突つ込みが・・・ハモつた・・・

「変態だア ! ! !

『何? ここ の学園長は変態なのか?』

入学式時、謎のセーラー男が来襲(?) したことにより、赤髪の男が悲鳴をあげていた

しかも学園長の話の真つただ中に「変態」と叫んだために学園長が変態扱いになんつー波乱万丈な入学式だよ・・・まったく・・・

そして教室 担任が言つたので自己紹介タイムに

「三日月中学出身・・・木下秀吉(じや)、よろしく頼む  
秀吉か・・・小学からずっと一緒にいたが、変わらんな  
変わつたら困るけど

「神無月中学出身・・・坂本雄一(ゆういち)だ  
と言つたのは変態と言つた赤髪の男だ  
成程・・・あいつが悪鬼羅刹で尊の・・・

「島ダ みなミ、ナす よろしくオネがいします」  
つて言つたんだけど黒板には島田美「彼」になつてた為あわてて訂正していた

担任によればドイツからの帰国子女らしい、

俺つてドイツ語は始めたばつかでうまくしゃべれねえんだよな・・・

「松永仁志だ、1年の間よろしくな」

『松永の右田つて・・・』

『間違いない・・・あの赤の右田』

『三日月の紅き隻眼だ・・・』

『あのあらゆる証拠を闇に葬つたあいつか……つていうコソコソ話が耳に入る』

俺は三日月中学でちょっとした問題児で  
いろんなことしては、裏で証拠隠滅してたもんだ……  
そのせいで「三日月の紅き隻眼」なんて呼ばれたんだが……  
今となればいい思い出だな。うん

「三日月中出身……土屋康太」

「趣味は、盗撮……何でもない、特技は盗聴……何でもない」

その、何でもないはデジカメをポケットに覗かせて言つもんじゃね  
えよ……ムツツリーー

こいつは康太何て名前だがあまりにもムツツリすぎるからムツツリ  
ー二なんてあだ名がつくんだよな

そしてラスト

「吉井明久です、一年間よろしくね」

きやがつたッ……

セーラー服にズボンの変態がつ！！



「にしても・・・まさかあの変態が俺のクラスとはな・・・」

自「己紹介が終わり、その後C組に来ていた

「くつはは、まさかホントにいるとはな」

「笑い事じやねえよ源一あの悪鬼羅刹と恐れられた坂本でさえ  
ものつそい嫌そうな顔してたぜ」

「え？ 坂本つて坂本雄一？」

「ああ、元神童のな」

源一が驚いた顔をする、無理もない神童の噂はここまでとじていろ

「坂本がこの学校にいるのか？」

そう言つて話に入ったのは、中学時代源一と一緒に生徒会に入つて  
いた

黒崎トオルと野口一心だつた

ああ、そうだと俺が言うと

「なんか怖いねえ～お前のクラス、変態もいるんだろ？」

「言うな、一心・・・つとチャイム鳴るじやんクラスに戻るわ

「ああ、またな仁志」

「おう、源一」

「む、仁志どこへ行つておつたのじゃ？」

教室に帰ると、木下秀吉がいた俺のクラスメイトで小学からの友人だ「源」達とちょっとな・・・つーかチャイム鳴るぞ席に着け

「うむ、すまぬ」

そう言い自分も席に戻るすると、前の席の生徒が窓の外を眺めていた  
たしか帰国子女の島田・・・だつたか・・・  
そいつの目は・・・  
(昔の俺にそつくりだな・・・)

そして帰り道、俺は秀吉、優子とともに帰路についた

「お主、眼を隠さなくて良いのか?」

「源」と同じ」と言づな

「でもアンタ、あの時は彼がいたから・・・

「あいつはどこにいるかもわからんねえよ

助けられてばっかりじやなんも始まんないさ

・・・それに

「「それに?」」

優子と秀吉の声が重なる

「どこにいようがあいつは元氣でやつてる、あいつが元氣なら  
俺もそうじやないといけねえ」

その言葉に一人は頷いた

「ただいまー」

『ニヤーー』

「どわあー!? カイー!?」

家に帰ると飼い猫のカイが飛びついてきた

「あら仁志おかえりなさい」

俺の母さん登場

「カイ、遊び相手は母さんに頼め」

『ニヤー』

「仁志、私は夕飯の準備があるんだけど?」

「・・・・・ カイ、俺の部屋行くぞ」

『ニヤーー』

そして部屋に行くと

『ヒトシ!ヒトシ!オ!オカエリ!』

この声は俺のペツトインコのヒー助だ

「煩いヒー助焼き鳥にされたいのか」

『オレのヤキトリ!マズ!ゲキマズ!』

「んな言葉ここで覚えたよ」

『ニヤーーニヤー!』

「分かつた、カイ遊んでやるから

『ハラヘツタ!メシ!ヒトシ!』

「お前ホントによー喋るインコだなあ・・・・・」

俺の部屋は今日もにぎやかです

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1759w/>

---

バカとテストと召喚獣 another

2011年10月28日17時10分発行